

祖谷地方で食用にされているセイゴナについて

茨木 靖¹・庄武憲子¹

[Yasushi Ibaragi¹ and Noriko Shotake¹ : Taxonomic notes on a local edible herb what is called as “Seigo-na” in Iya district, Tokushima Prefecture]

Abstract : One of the local herbs known as “Seigo-na” was reexamined from botanical aspect. Seigo-na is a native plant in Iya district located in the mountains west of Tokushima Prefecture. This plant is found by stream side or shade of a forest, and local people collect them to eat as a side dish “Siraee” in spring. As a result of taxonomic study, this plant was identified as *Angelica polymorpha* Maxim.

キーワード：祖谷地方，セリ科，在来作物

徳島県三好市の祖谷地方(同市東祖谷及び西祖谷山村)は、四国山地に位置し秘境とも言われ、山深い地勢の中で特有の農耕を営んできた地域である。限られた耕作地の中で、1950年代まで焼畑農耕が行われ、ソバ、ヒエ、アワ、キビなどの雑穀類や芋類、また換金作物としての

ミツマタなどを栽培してきた。これらの作物の中には、東アジア一帯の山間地で栽培されてきた作物と共通する品種も見られ、日本の農耕文化の成り立ちや、作物の伝播について考える要素のひとつとして考えられてきた(佐々木, 1972)。



図1. 栽培中の“セイゴナ”



図2. シラネセンキュウ. セイゴナとして栽培されていたもの(徳島県三好市東祖谷若林(茨木 靖・久保直樹・南 利夫・庄武憲子・高木一文, Sep. 18, 2014, 180914351, TKPM BSP-082576)

2015年12月2日受付, 12月25日受理.

¹ 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Tokushima 770-8070, Japan.

徳島県立博物館では、この祖谷地方の在来作物についての現状記録のため、在来作物の品種、栽培方法と栽培現況、利用方法についての聞き取り調査および作物の標本収集を行ってきた。その過程で東祖谷において特異的に食用とされ、また時に栽培される“セイゴナ”という植物について、当地在住の方より聞き取りをすることができた。しかし、この植物が植物学的に何であるのかなどは十分に調査されておらず、利用者の間でも不明のままであった。そこで、ここでは現地調査の状況とあわせて、植物学的知見を記録することとした。

現地の状況と植物の同定

2014年9月18日に東祖谷の(T氏)の自宅兼店舗脇の畑で栽培中の個体を採集した(図1, 2)。T氏によると、これは祖谷地方で“セイゴナ”と呼ばれるもので、同地方でしばしば食用にされる。通常は沢沿いなどに野生しており、春に採集して白和えなどにするとのことであった。この植物については、農産漁村文化協会の日本の食生活全集徳島に、祖谷地方では“セイゴナ”と呼ばれる植物を白和えにする旨、記述があるが、植物学的な検討はなく標準和名は明示されていない(立石ほか, 1990: 100)。また、植物方言を扱った文献にもセイゴナの記載は見られない(阿部ほか, 1961; 徳島県, 1971, 木村ほか, 1972; 和田, 1973; 金沢, 1976; 阿部, 1990; 平山, 1997; 八坂書房, 2001)。なお、小原春造らによって、江戸から明治時代にかけて編纂された『阿淡産志』には、当時の本県の物産について詳述されているが、セイゴナについての記述は見られない。

そこで、この植物について、当館所蔵のシシウド属全種の標本と比較検討を行った。その結果、本植物はシラネセンキュウ *Angelica polymorpha* Maxim. であろうと考えられた。

具体的には、本植物は、頂羽片の基部が葉柄に流れて翼になることは無く、草丈は1m以下と小型で、葉は薄く裏面は白みがる。葉は3-4回3出羽状複葉で、葉柄は袋状に膨らむ。さらに花柄や小花柄は、ほぼ同長であることなどからシラネセンキュウと同定されるものである。

同属の植物の内、本種に類似のものはハナビゼリ、ウバタケニンジンがあるが、ハナビゼリは、葉柄の基部が鞘状となるものの膨らまず、花柄や小花柄が不同長となる点で明らかに異なっている。また、ウバタケニンジンは、葉が厚く草丈は40cm以下で小葉は細長く粗く細裂することから見分けられる。

また、国内には本種に類似したものとしてヒュウガセンキュウが知られている。しかし、本種はこれまで徳島県からは記録されておらず、形態的にも雄葉が長く伸び出る点で異なる。

シラネセンキュウは、セリ科の多年草で、朝鮮、中国東北部並びに本邦の本州から九州にかけての山地の日陰によく見られる(北川, 1982)。徳島県内でも、鴨島町、剣山周辺、旧一字村、旧木屋平村、旧木沢村、旧木頭村、旧上那賀町、上勝町、神山町、佐那河内村などの山間部から記録がある(阿部, 1990)。本種は、本県以外でも、山菜としての利用があり、熊本県の阿蘇地方では若葉、若芽を摘んで塩茹でにし、辛子醤油に漬け込むなどして保存食を作るとされる(橋本, 2003; Aso pedia 2014)。また、薬用としても、根に鎮痛、去痰、通経作用がある(Aso pedia, 2014)。

以上のように、祖谷地方において、セイゴナと呼ばれ、食用に用いられているセリ科植物について検討を行い、それがシラネセンキュウであろうとの結論を得るに到った。しかし、ここで得られたのは一つの事例であり、複数の種類が混称されている可能性もある。今後のさらなる聞き取り調査が必要であろう。

標本: 徳島県三好市東祖谷若林(Wakabayashi, Higashiiya, Miyoshi-City, Tokushima Pref., Japan.) 沢沿いの斜面。人家横の畑内、食用とするために栽培。草丈70cmほど。葉は薄く明緑色。花は白色。現地名: セイゴナ。Alt. ca. 550 m. 33° 86'N, 133° 89'E(茨木 靖・久保直樹・南 利夫・庄武憲子・高木一文, Sep. 18, 2014, 180914351, TKPM BSP-082576)

謝辞: 本研究にあたり、徳島植物研究会会長の木下覺氏には、本種の研究にあたっての貴重なご意見をいただきました。徳島大学大学院の峪口有香子氏には、方言名としてのセイゴナについて情報を頂きました。徳島県農林水産総合技術支援センターの高木一文氏には、本種の栽培についての情報を頂きました。また、調査にあたっては徳島県西部総合県民局評価検査課の南利夫氏、ならびに東祖谷の皆様にお世話になりました。ここに記して謝意を表します。

なお、本稿は平成26-27年度徳島県立博物館課題調査「祖谷地方の在来作物—保全と活用に向けて—」の成果の一部として行われたものです。